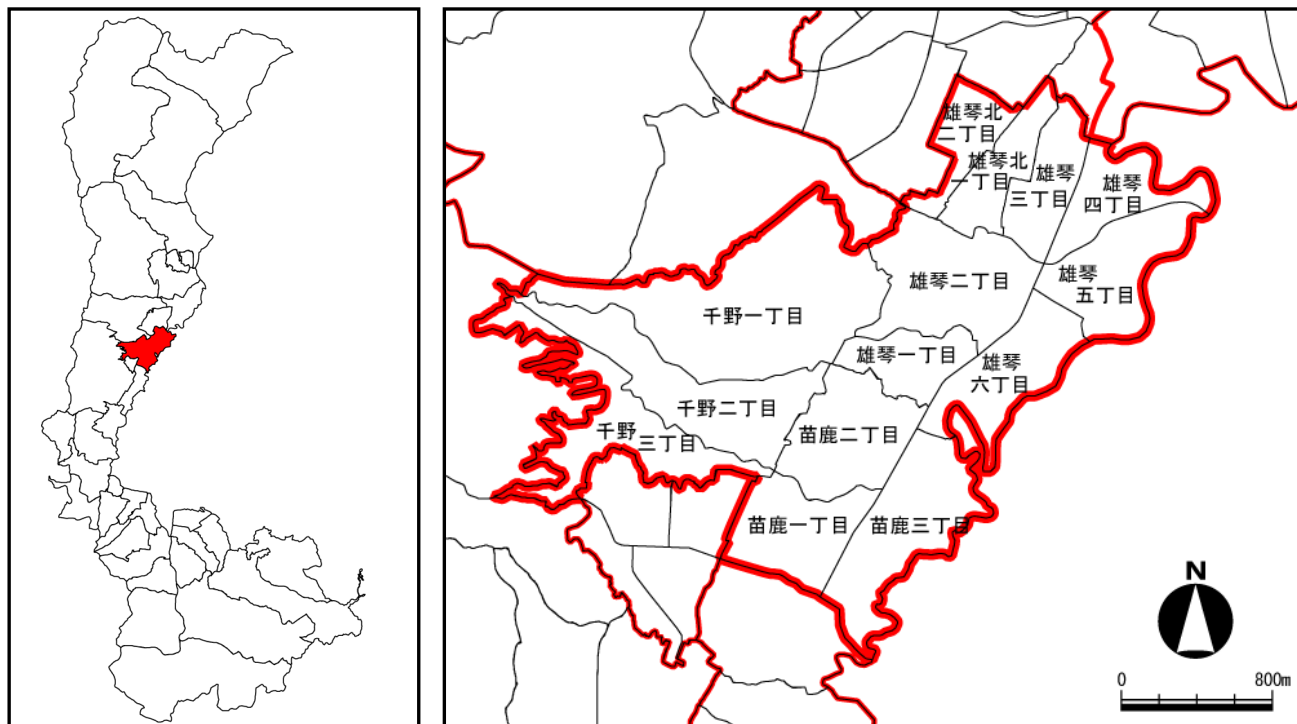


■ 学区の概況



<町丁名>

雄琴一丁目、雄琴二丁目、雄琴三丁目の一部、雄琴四丁目、雄琴五丁目、雄琴六丁目、雄琴北一丁目の一部、雄琴北二丁目の一部、千野一丁目、千野二丁目、千野三丁目、苗鹿一丁目、苗鹿二丁目、苗鹿三丁目

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

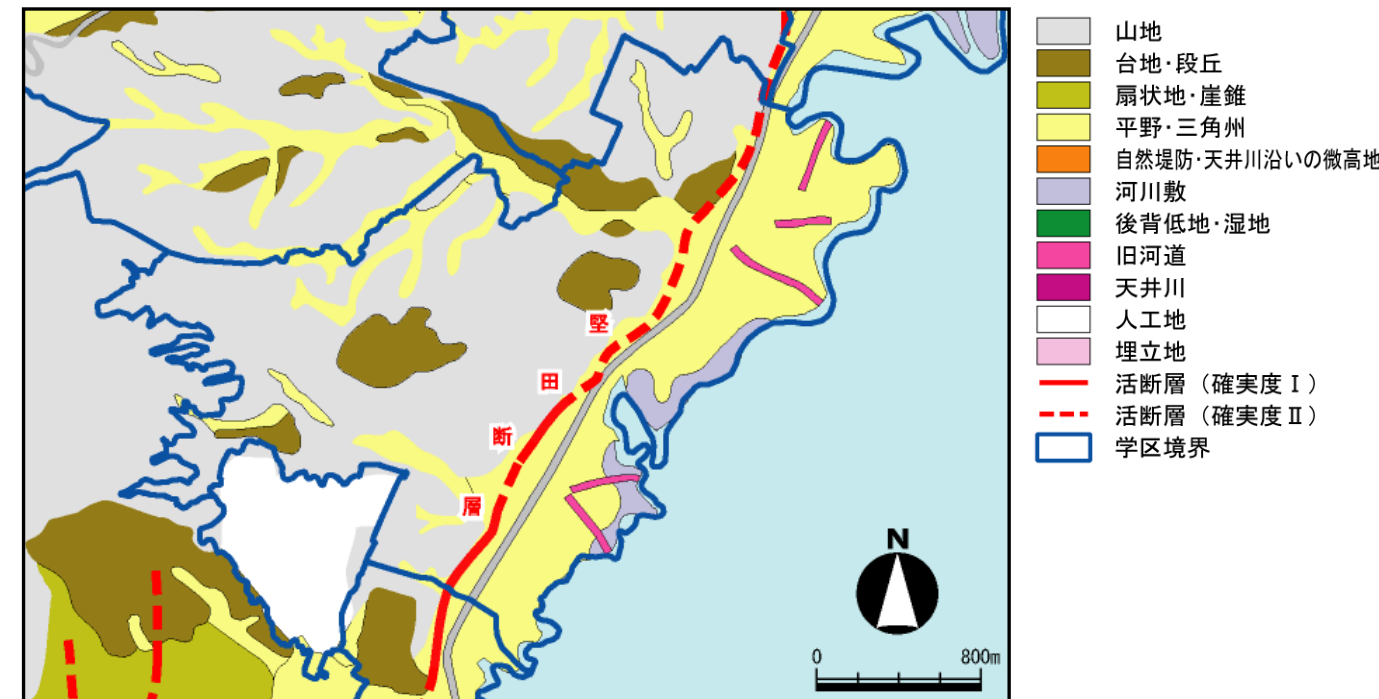
<学区の特徴>

雄琴学区は小槻氏今雄宿禰の荘園として栄え、都からこの地に移り住んだ貴族も多く、その寝殿造りの邸宅から優雅な琴の音が流れていたといわれ、現在の地名の由来となっている。

本学区は農業とともに、鉱泉の湧出によって温泉旅館、エリ漁等による湖国料理といった観光産業も発展してきた。

一方、市内最大のヨシ原のある湖岸と山裾の棚田をはじめとする山の自然にも恵まれた地域でもある。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

<地形の特徴>

- 雄琴学区の地形は丘陵と台地・段丘が大部分を占め、地域の東部の湖岸沿いには低地が分布する。
- 低地に広がる三角州は、旧河道に沿って湖に突き出す形をしている。また、低地を流れる河川の多くは天井川化している。

<地質の特徴>

- 学区の西部に広がる堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。堅田累層は約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。これらの地層は、ところによってはかなり傾斜しており、また地質が砂と粘土の互層であるため、地層が流れ盤になっている側では、粘土層がすべり面となって地すべりが発生する。
- 雄琴・仰木地域を中心とする棚田の光景は、こうした地形地質の条件を人間がうまく利用して生まれたものである。

<活断層の特徴>

- 丘陵と低地の間に堅田断層の南半分が通過している。堅田断層は、木戸学区の南船路から比叡辻までのびる、長さ約 13km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) ^(注1)	不燃領域率 (%) ^(注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
雄琴一丁目	79.2	78.6	60.8	42.0
雄琴二丁目	58.8	87.1	81.6	62.3
雄琴三丁目	49.2	73.6	68.4	28.6
雄琴四丁目	130.2	93.4	78.4	0.0
雄琴五丁目	73.1	73.4	87.6	1.5
雄琴六丁目	72.8	81.5	79.5	3.4
雄琴北一丁目	44.8	86.1	48.0	2.5
雄琴北二丁目	49.8	72.7	48.6	0.4
千野一丁目	43.7	93.2	87.4	68.3
千野二丁目	36.3	96.5	77.4	81.3
千野三丁目	39.6	96.3	92.2	71.2
苗鹿一丁目	42.4	87.9	76.1	62.9
苗鹿二丁目	53.3	78.7	67.4	40.3
苗鹿三丁目	-	-	19.0	45.0
学区平均	56.5	88.2	69.4	30.9
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 56.5 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha より低い。
- 不燃領域率の学区平均は 88.2% で市平均の 93.9% より低い。
- 木造率は、千野三丁目 が 92.2% で最も高く、苗鹿三丁目 が 19.0% で最も低い。学区平均は 69.4% で市平均 72.7% より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、千野二丁目 が 81.3% で最も高く、雄琴四丁目 が 0.0% で最も低い。学区平均は 30.9% で市平均 40.3% より低い。

■ 人口の状況

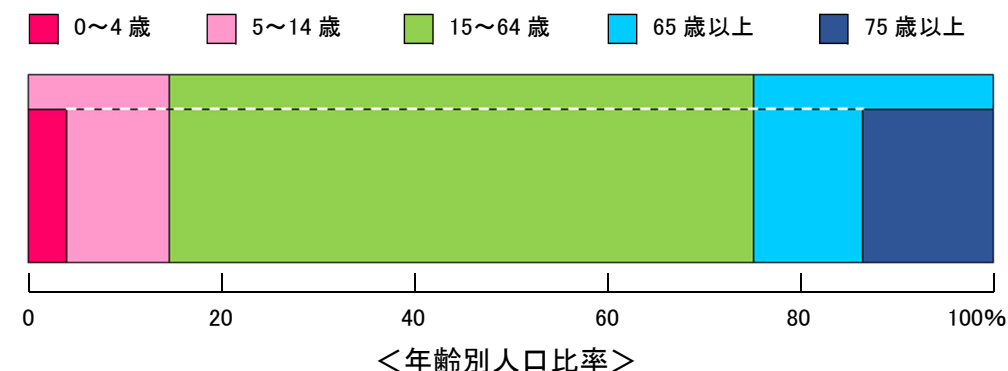
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	6,261	人		-	1
年齢別 (0~4 歳)	253	人	学区人口に対する割合	4.0	1
年齢別 (5~14 歳)	660	人	学区人口に対する割合	10.5	1
年齢別 (15~64 歳)	3,798	人	学区人口に対する割合	60.7	1
年齢別 (65 歳以上)	1,550	人	学区人口に対する割合	24.8	1
年齢別 (75 歳以上)	843	人	学区人口に対する割合	13.5	1
世帯数	2,934	世帯		-	2
1 世帯当たり人口	2.1	人/世帯		-	2
要介護認定者	362	人	学区人口に対する割合	5.8	3
身体障害者 (要配慮者)	81	人	学区人口に対する割合	1.3	4
知的障害者 (要配慮者)	14	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	122	人	学区人口に対する割合	1.9	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 人口は主に学区内地域の東側 (JR 湖西線よりも東側の地域) に集中している。
- 高齢者 (65 歳以上) は 1550 人、乳幼児 (0~4 歳) は 253 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 24.8%、4.0% である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より高い。
- 要介護認定者は 362 人 (5.8%)、身体障害者 (要配慮者) は 81 人 (1.3%)、知的障害者 (要配慮者) は 14 人 (0.2%) である。
- 外国人居住者は 122 人 (1.9%) である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 ^(注1)	15 箇所	1
土石流危険渓流 ^(注1)	5 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 ^{(注1)(注2)}	23 箇所	2
土砂災害警戒区域 ^{(注1)(注2)}	60 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） ^(注1)	5 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） ^(注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 ^(注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 ^(注1)	1 箇所	5
地すべり危険箇所 ^(注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 ^(注3) (0.0m~0.5m)	144,492 m ²	6
(0.5m~1.0m)	193,429 m ²	6
(1.0m~2.0m)	300,568 m ²	6
(2.0m~)	96,216 m ²	6
特に重要な水防区域 ^(注1)	0 箇所	7
重要水防区域 ^(注1)	1 箇所	7
防災重点農業用ため池 ^(注1)	1 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1: 滋賀県砂防課 (R3.7.16) 2: 滋賀県砂防課 (R3.2)
 3: 滋賀県森林保全課 (R3.11) 4: 滋賀県砂防課 (H24.12) 5: 農林振興課、砂防課 (H24.12)
 6: 淀川水系 洪水浸水想定区域図(想定最大規模)(瀬田川上流: H31.3.19、瀬田川下流: H29.3.21、琵琶湖: H31.3.19、草津川: R1.10.1、大戸川: H31.3.19)
 7: 琵琶湖河川事務所 (R2.6) 8: 大津市産業観光部 (R3.12)

<防災上の特性>

- 雄琴学区の最も大きい特徴は、学区面積の半分以上の地域が地すべり防止区域に指定されていることである。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 学区内には北東-南西方向に堅田断層が通過し、この堅田断層の西側にあたる地域が、主に地すべり防止区域に指定されている。
- 急傾斜地崩壊危険箇所や山地災害危険箇所、河川の水防箇所に指定されているエリアでは、豪雨などの場合には厳重な警戒が必要である。
- 琵琶湖岸では琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域があるため注意が必要である。
- 地震時には、2次災害が発生する可能性があることに留意する必要がある。堅田断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動(地震の揺れ)によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある(このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている)。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	雄琴小学校グラウンド	○	○	○		雄琴二丁目 16-1
	旧雄琴幼稚園グラウンド	○	○	○		雄琴二丁目 16-1
	雄琴湖岸緑地	○		○		雄琴六丁目 1
	湖西浄化センター	○	○	○	○	苗鹿三丁目 1-1
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	雄琴市民センター	○	○	○		雄琴一丁目 17-2
	雄琴小学校体育館	○	○	○		雄琴二丁目 16-1
指定避難所	(福) 雄琴児童クラブ	—				雄琴二丁目 16-1

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※(福)印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
雄琴市民センター	雄琴一丁目 17-2	578-1035

<警察 110>

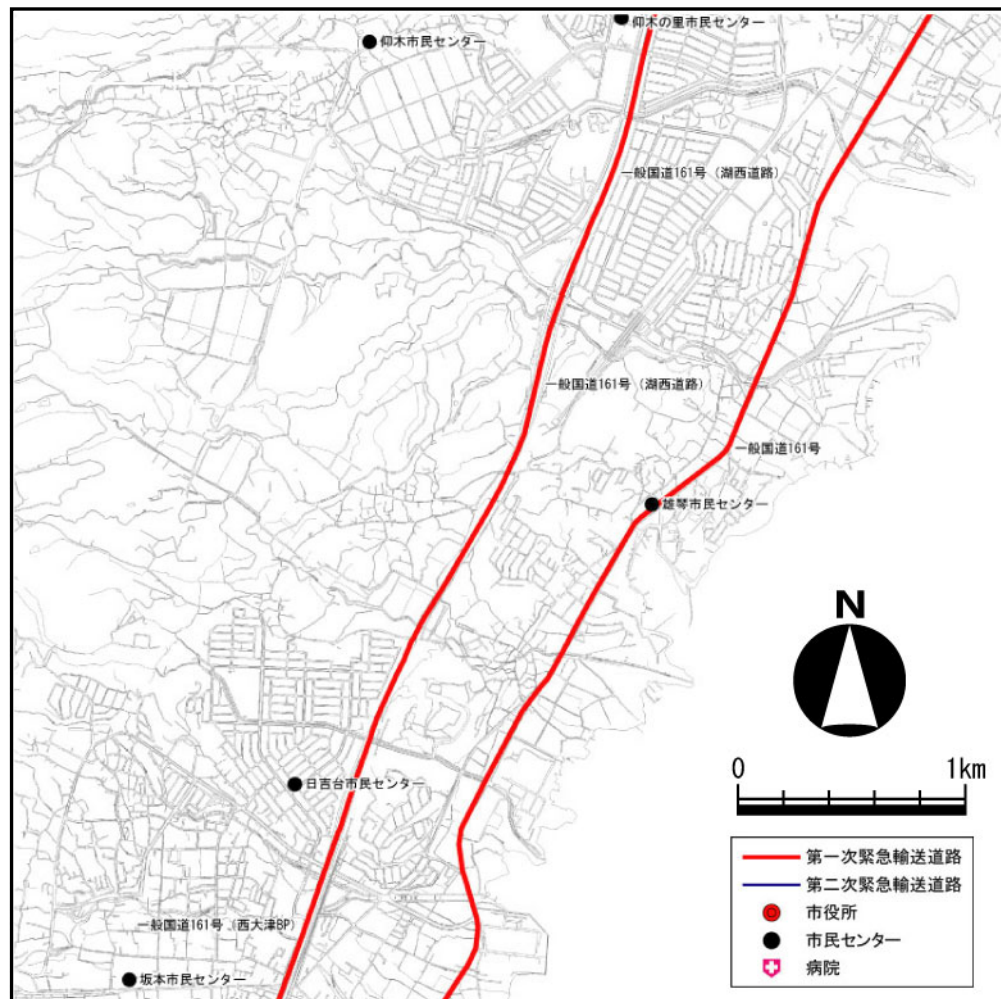
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234
雄琴交番	雄琴一丁目 16-20	578-1410

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
中消防署	御陵町 3-1	525-0119
西分署	坂本三丁目 27-33	579-0119
雄琴分団	雄琴一丁目 17-7	578-4500



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院		大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	1,907	4,786	915	378	1,104	32	22	28	47	35	40	2	2	2
ケース2	1,907	4,786	933	376	1,121	33	23	29	47	35	40	2	2	2
ケース3	1,907	4,786	877	387	1,070	30	21	26	47	35	40	2	2	2

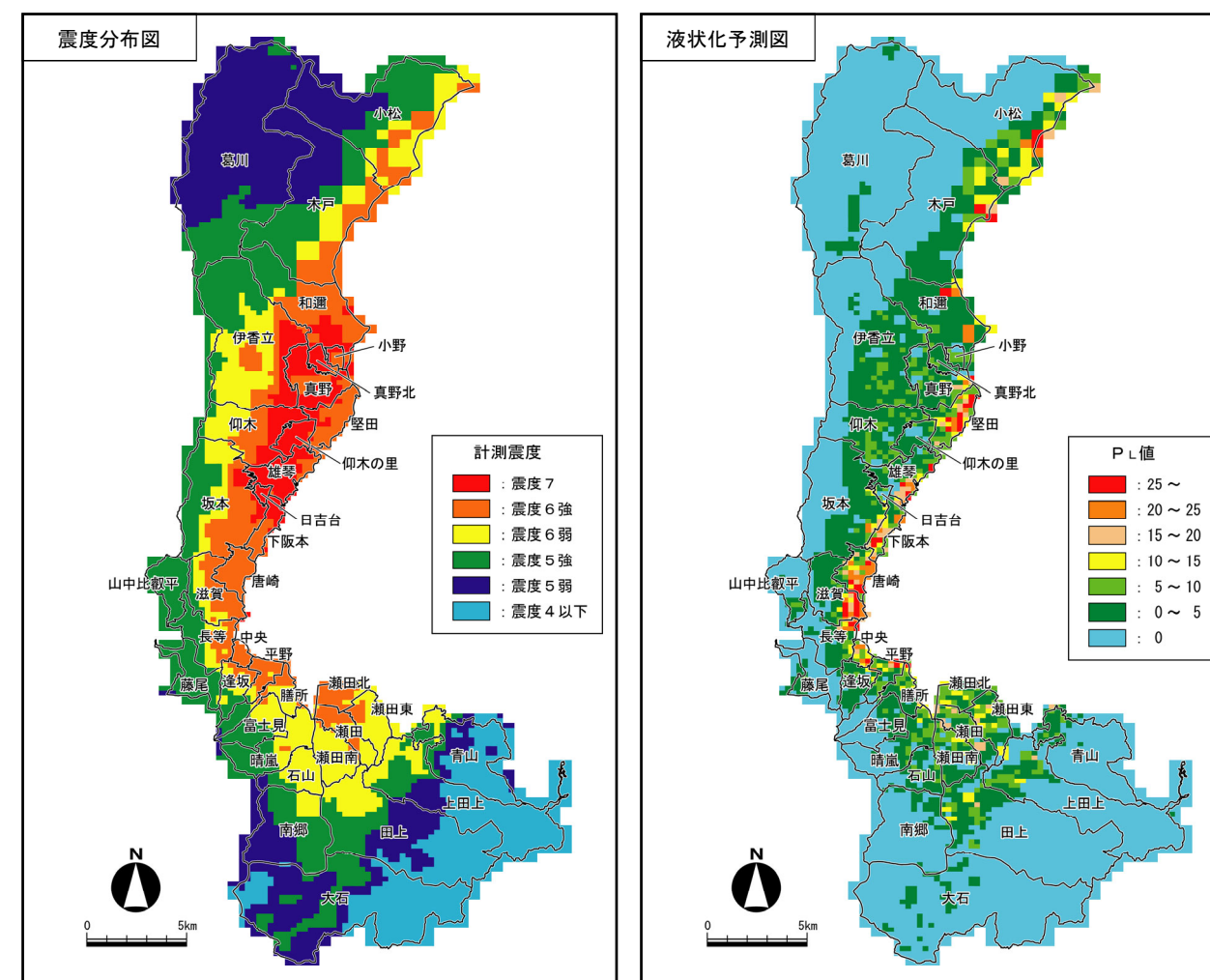
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	1	2	3	975
ケース2	1	2	3	983
ケース3	1	2	2	953

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)